

小学校の部 最優秀

みんなでつくる、安心、安全な街

白河市立白河第二小学校5年 鈴木 美 晴

私の家は学校からとても近いため、毎日の通学路には横断歩道がない。そのかわり、学校の校門のところに地域の見回り隊の人が立って、いつも私たちをむかえてくれる。

しかし以前、家の事情で、少しの間だけ学校から少しはなれた所から登校していた時期があった。その時、なれない長い通学路を歩く私を安心させてくれたのが、登校の時に見守ってくれる一、二人の方々だった。私たちの街では、このように当たり前の見回り活動が行われている。

実は、私の祖父もその見回り隊の一人だ。祖父は、子どもたちが帰る時間を細かく覚えていて、その時間に合わせて見回りに出かけていく。その姿を見て、私は本当にすごいと思ったし、地域の子ども達を大切に思ってくれていることが伝わってほこらしく感じた。

学校のじゅ業やニュースで地域の方々が作ってくれている「見守りの目」があるからなのだと気がついた。

地域の安全を守る活動は、不しん者へのけいかいだけではない。最近、特に大きな問題になっているのが、「なりすまし詐欺」などの迷惑電話だ。お年寄りをねらって、家族や警察官になりすまして大金をだまし取るようなはん罪のニュースを、毎日のように耳にするようになった。

実は先日、近くに住んでいる祖父母の家に、見知らぬ番号から迷惑電話がかかってきた。祖父が電話に出て、怪しいと思って何もいわずにだまっていたところ、相手は直ぐに電話を切ったという。実害はなかったものの、私たちのすぐ近くまではん罪がせまっていることを知り、とても怖い気持ちになった。

この出来事後、祖父はすぐに近所の人や町の人たちに「最近こういう電話があったから気をつけてほしい」と少し話をしてみたそうだ。私は、祖父のこの行動こそが、防はんにおいて最も大切なものではないかと気づかされた。

はん人は、周囲との連絡が少ない、孤立した人をねらいやすいと言われている。だからこそ、祖父のように「怪しいことがあった」と地域で情報を共有し、声をかけ合えるような関係をつくることが、最大の防はん対策になる。一人の気づきを町全体に広げることで、街みんなでお年寄りを守ることが出来る。

見回り活動で街を歩くこと、あるいは近所などであやしい出来事を話し合うこと。これらは一見、別々の行動に見えるが、「みんなで街を守る」という思いは、みな同じだ。地域のつながりが強くなるほど、街全体がはん罪者を寄せ付けない場所となる。

安全な街は、警察や特定の大人たちではなく、子どもでもできることはたくさんあるはずだ。まずは、地域の人たちで声をかけ、少しでもひ害をへらすことが、「地域の安全」につながると思う。